

PBL(Problem Based Learning)型 授業の教育実践

山下悠 Yu Yamashita
滋賀大学 経済学部 / 准教授

本稿では、就業力育成支援室のPBL型授業科目として柴田雅美特任准教授と私が担当した、「地域活性化プロジェクト2016年春 外国人観光客の実態に迫る—Youは何しにHikoneへ」について書いていきます。

1. はじめに

就業力育成支援室の活動は、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」の支援を受けて2010年秋にスタートしました。2015年からは学内予算を措置するとともに、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、幹事校である滋賀県立大学と協働して事業を推進しています。就業力育成支援室では、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体などと連携することで、インターンシップや、PBL型授業、キャリア形成を促す授業を開講し、産業界のニーズに対応し、社会的・職業的にも自立した人材の育成に向けた教育の充実を図ってまいりました。昨年度末で就業力育成支援室担当教員が1名退職し、学生が履修することができるプロジェクト科目が削減されることになったため、それまで講義型の授業しか担当したことがない私がはじめてPBL型の授業を実施したのが、この科目でした。

PBL型授業というのは、少人数グループによる問題発見解決型の学習方法です。特にここ数年、実践的な教育を実現するための効果的な教育手法として注目されています。学生が学習の主体であり、教員は学習を支援する立場になりますが、様々なレベル設定で取り組むことができる教育手法です。基礎教養や一般的で身近な事例を取り上げて問題解決に取り組んでみることから、高度な専門教育を展開することも可能です。

授業で取り扱う問題のアイデアは、2015年2月に就業力育成支援室と教育学部で共同開催した「『まちプロx大学力=発信・発見・発展』—映像による地域

活性化シンポジウム」におけるトーク・セッションでいただきました。このシンポジウムは、2015年秋学期に経済学部で開講されたプロジェクト科目「地域活性化プロジェクト—外国人観光客の集客を考える」と教育学部で開講された「中等英語科教材内容論Ⅱ」において、それぞれ学生が作成したインバウンド(外国人観光客)を誘致するための映像の上映会を開催するとともに、映像にまつわる様々なテーマについてトーク・セッションが行われました。その中で、どのようにすれば彦根にインバウンドを誘致する映像を作成できるのかという根源的なテーマについてのトークの中で、「彦根に来たいと思う人が感じる彦根の面白さや楽しみに注目しなければいけないが、それは彦根の中にいる人が発見しづらいので、彦根に来たインバウンドに撮影機材を渡し、興味があるものを撮影してもらうのはどうか」という意見がありました。これをそのまま採用し、映像編集のPBL型授業科目として開講するのは、映像作成を行ってもらった見返り、すなわち謝礼金を払うなどの必要があり、実施が困難であると考えられました。

しかし、彦根市のインバウンド戦略を考える上で、インバウンドが彦根市内のどの観光施設を訪れ、何に興味を持ち、何を消費するのかといった行動を調査・分析することは極めて重要であるため、インバウンドが彦根市内で行う観光のすべての行程に随行しインタビューをすることで実態を調査し、調査終了後には統計的な分析まで行う科目として開講しました。

2. 具体的な授業内容

「グループワークを通じてインバウンドに対して英語や中国語など日本語以外の言語でインタビューを行う」、「得られた調査結果について統計スキルを用いて分析を行う」、「分析結果について連携団体や一般の方に向けた調査報告会を行う」と、半期の授業にしては多くの内容を詰め込んだため履修を希望す



る学生は少ないのではないかと考えていましたが、募集人数を大きく上回る人数の学生から履修申し込みを受け、初回の授業終了後に語学スキルおよび統計スキルを持つ学生を優先する形で選抜を行いました。

①インタビュー調査

2回目の授業でグループ分けを実施するとともに調査方法および調査項目について説明したところ、早いグループは次の週末から調査を行ってくれました。JR彦根駅西出口にある彦根市観光案内所を訪れた外国人観光客グループ(1人の場合もあり)に対して、彦根市内の観光について随行調査したいことを依頼し、合意が取れた場合のみ2~3名の学生が随行し、彦根城などの観光施設や飲食店、土産物店などを巡りました。調査は、授業時間外の実習として行い、平成28年4月23日から5月29日の主に土日に実施されましたが、一般のアンケート調査よりも長い時間を要するため、有効調査数は50グループにとどまりました。

②分析手法の学習と実践

6月上旬には、表計算ソフトのExcel 2013と統計分析ソフトのRの基本的スキルを授業および演習を通じて学習させ、グループに割り当てた6つのテーマにしたがって記述統計を中心とした分析を行いました。Excel 2013については多くの学生が基本的スキルを見つけていたものの、Rについては一部の科目・専門演習で用いられているに過ぎず、かなり基本的なところから授業を行いました。

③分析結果の報告

6月下旬には、プレゼンテーションソフトのPowerPoint 2013の基本的スキルを授業および演習を通じて学習させ、それぞれのテーマの分析の結果について、1回生がプレゼンテーションを行うように役

割分担をしました。というのも、ほとんどのグループでは統計分析スキルを持つ学生がプレゼンテーションスキルを持っているケースが多く、該当学生に大きな負担が掛かる可能性を減らすため、プレゼンテーションについては未経験であろう1回生に担当させました。その結果、いくつかのグループでは、1回生が自分でプレゼンテーションのスキルを身に付けるだけでなく、お互いに教え合う行動が見られました。

調査結果報告会は、平成28年7月12日にホテルサンルート彦根にて行いました。彦根市観光案内所や彦根観光協会、ならびに彦根でボランティアガイドを務めておられる方など多数参加していただいた中で、1回生6人がそれぞれ10分程度の報告を行い、調査で浮かび上がった彦根市内の観光の問題点に対する解決策なども提案してくれました。

3. 授業の成果と予定

履修した学生に対する授業アンケートでは、講義型の授業で学んだ語学スキルや統計スキルを実際に用いることができる授業は少なく、充実していろいろなことに取り組めた達成感があるというコメントがあると同時に、まだまだ勉強が足りないという更なる学習に意欲を見せるコメントも多くありました。授業を設計し実施する立場として多くの改善点が見つかるとともに、多くの知見を得られました。

2016年秋学期にも、秋冬期に彦根市内を訪れるインバウンドの観光の実態を調査する目的で、春学期の科目の改善点を盛り込む形でプロジェクト科目を開講しております。3月に調査結果報告会を開催する予定にしておりますので、興味を持たれましたら就業力育成支援室までご連絡ください。